

■協働事業評価フロー(イメージ図)

●自己評価・相互評価

※市民及び市(事業主管課)が実施(自己評価シート及び相互評価シートを活用)

資料3

事業計画段階

(事業をどのように進めていくか話し合う段階)

※長期に実施される事業の評価のタイミングについては、事業計画段階において検討する。

事業実施段階

(単発事業の場合は、事業計画から事業実施日まで、年間を通じて行う事業の場合は、1回目の事業終了後など)

事業終了段階

(全ての事業が終了した段階)

自己評価→協働の原則に照らしてどうか、市民ニーズや満足度、目標等についてどの程度達成できたか等、協働事業の効果や成果等について評価を行う。
※事業終了後の一回に限らず、事業計画策定終了時や事業実施中の中間時等、事業の実施形態や必要性を踏まえ、何度でも行うことができる。

相互評価→協働の主体同士が、効率的・効果的に事業を振り返れるタイミングで行う必要があるため、**原則協働事業終了時に行う**。
※長期にわたる協働事業の場合、計画策定時や事業実施中の中間時など、効果的なタイミングで行うことも有効。

協働事業終了

●第三者評価

相互評価取りまとめ
(市民協働推進担当)

市民協働推進担当：
事業担当課より提出のあった相互評価シートのとりまとめを実施。
(相互評価集計シート参照)

評価対象事業の選定

市民協働推進委員会：
約20～30件程度に評価対象候補事業を選定。

市民協働推進会議：
市民協働推進委員会が抽出した評価対象候補事業から、約10件(市民提案型協働事業を含む。)程度に対象事業を選定。

意見交換会
(市民・市事業主管課・市民協働推進会議)

市民協働推進会議：
約10事業について、意見交換会を実施。意見交換会では2ないし3グループ(1グループ3～5人)に分かれ、3～5事業を受け持つ。

第三者評価
(市民協働推進会議)

市民協働推進会議：
各委員が作成した評価シートに基づき、会議で情報共有を行い、会としての評価を行う。

答申
(市民協働推進会議)

答申後

公表

次年度以降の事業へフィードバック